

令和4年度 ドキフェス

「ドキドキ ワールド クラフト フェスティバル」

会期：令和5年2月1日（水）～2月26日（日）

10：00～17：00（最終日は、14：00時まで）

※休館日 2月6日（月）、13日（月）20日（月）24日（金）

会場：高鍋町美術館回廊（壁面約40m） 宮崎県児湯郡高鍋町大字南高鍋6916

出品対象者：本校幼児・児童・生徒・職員・保護者など明星視覚支援に関わる全ての方

<展覧会コンセプト>

- ・明星に関わるみなさん全員で作品を作成し、みなさんが美術館に展示する側の主役になる。
- ・展覧会を「耳を澄まそう、触れよう」をコンセプトに、聴覚、触覚を中心とした作品作りをして、みなさんが美術館での作品鑑賞を楽しむ。

<ポスター用宣伝文句>

「鑑賞」って何でしょう？

明星視覚支援学校幼児・児童・生徒22名を中心に、職員・保護者も参加し、触る、聞くをテーマにした作品をみなさんにお届けします。どうぞ「心」で鑑賞してください。

作品内容

- 1 幼児・児童・生徒・職員（事務・寄宿舍・厨房・警備含む）その家族に、参加してもらい、持ち寄りによる共同制作作品
 - ・共同制作第1弾「きもちいい壁」（触覚をテーマにした作品）
117作品（約106名参加）
 - ・共同制作第2弾「私のサウンド」（聴覚をテーマにしたサウンド）
60作品（59名参加）
 - ・共同制作第3弾「生徒会企画」（企画・運営・制作を生徒会が行ったモザイク画）
小・中・高・理療科・職員参加
- 2 聴覚、触覚をテーマにした図工・美術・家庭科の授業作品。
 - ・鑑賞教育のために中3生が作った葛飾北斎の触れる模写（富士山に触れると押し笛が鳴る。）や、中1生が書いた大作の書道を、職員が立体コピーをし、触って鑑賞できるようにした作品など。
 - 24点（幼・小・中・高生15名）
 - 会場の飾りとして、文化祭時に使った「あみあみ・まきまき」を出品
- 3 職員による、本校生に配慮した鑑賞が可能な作品
 - ・本校生に楽しんでもらうことを前提とした作品。これは、募集をして賛同した職員による作品。
 - 13点（12名、職員（舎、厨房含む）、職員の家族、理療科生）

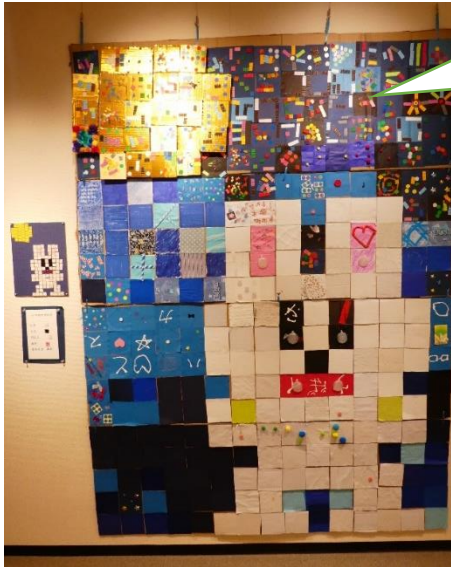
総参加数

明星視覚支援学校、幼児2名、児童6名、中学部4名、普通科3名、専攻科理療科4名、専攻科保健理療科3名 計22名

保護者家族やその関係者、本校の教職員、養護教諭、事務職員、寄宿舍職員、厨房職員、警備員等、計88名

合わせて110名ほどが参加

< 会場の様子 >



生徒会企画のモザイク画で、凹凸があります。高さ2メートル、大作です。

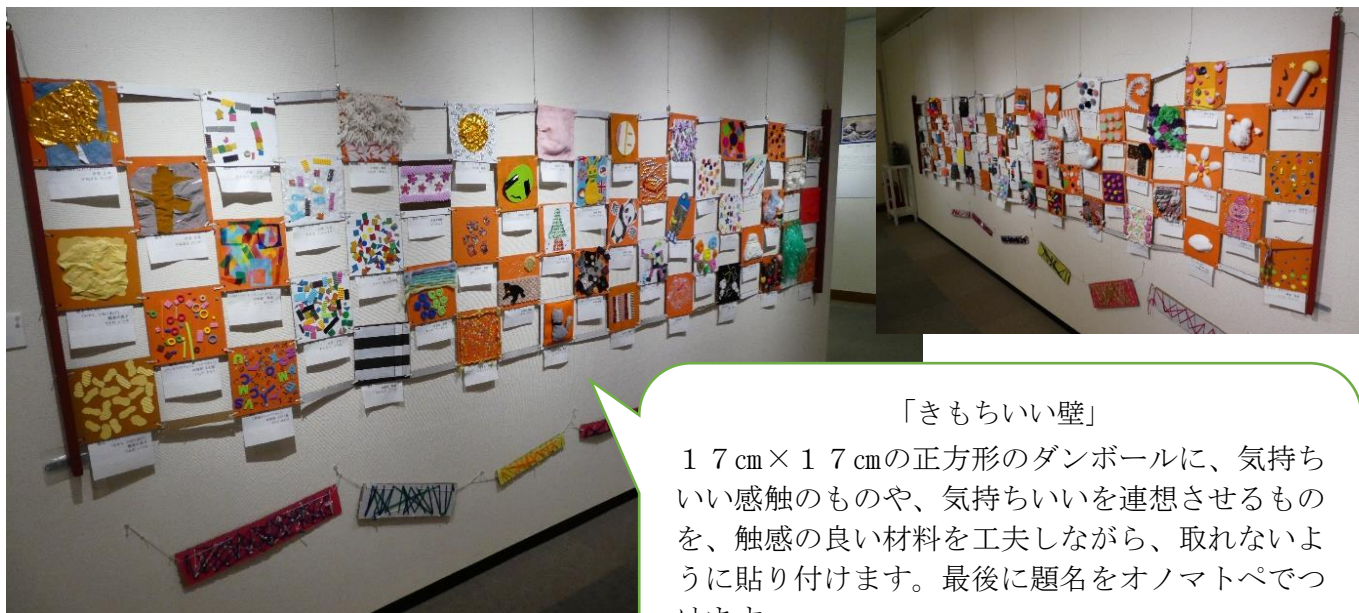


A4版に縮小し、素材の違いで色分けして、全体像が分かるような表示がしてあります。

幼稚部のコーナーです。上部の「ドキフェス」の表示は、振ると音がします。



鑑賞教育、触って鑑賞する模写として葛飾北斎神奈川冲浪裏を、和紙で制作しました。中3生の作品です。



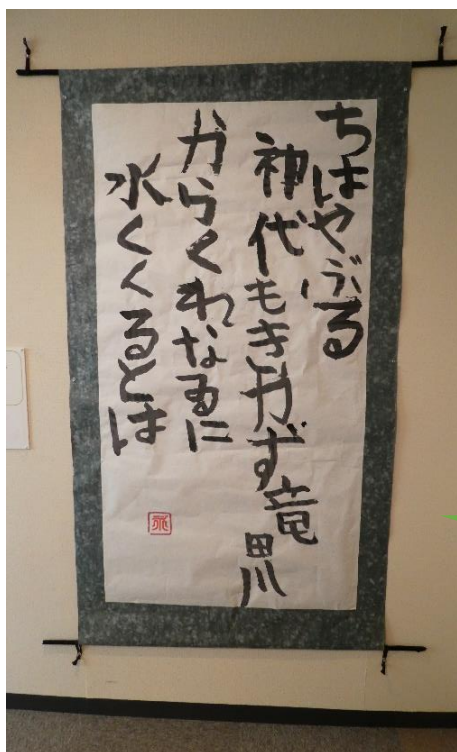
「きもちいい壁」

17cm×17cmの正方形のダンボールに、気持ちいい感触のものや、気持ちいいを連想させるものを、触感の良い材料を工夫しながら、取れないように貼り付けます。最後に題名をオノマトペでつけます。



「私のサウンド」

ペットボトルの中に、いろいろな素材の物を入れてもらい、振ったときの音や、入れた物にまつわる題名を付けてもらいました。人によって音に対する感じ方の違いを楽しむ作品となります。



本校にある、立体コピー機を使い、中1生の書道作品を、職員が立体コピーしたものです。

厨房の職員が、本校生が楽しめるようにと、音や触感を意識した作品を作ってくれました。





職員が、「触れる」をテーマに幼児児童生徒へ向けて、個人作品を作ってくれました本校生が楽しめるようにと、音や触感を意識した作品を作ってくれました。



表示とその下の飾りが文化祭装飾用に児童生徒が作った「あみあみ・まきまき」です。授業の作品も展示しました。



小中高等部の授業作品を展示しました。この作品は、本校中学部生が本校のキャラクターをデザインし、下の作品はキャラクターを立体にしたものです。

小学部2年生の作品「不思議な卵」です。卵から季節が出てきたという発想で、季節ごとに1年かけて作りました。

ペットを、新聞紙で作りました。

